

- ◎全国和牛能力共進会宮城大会で上位入賞を目指そう。  
 ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。  
 ◎公共牧場の有効活用と自給飼料の安定確保を進めよう。

## <要約>

### ◇ 乳用牛 ～分娩前後の飼育管理～

分娩予定牛は清潔で寝起きがしやすい環境で飼育する。分娩時は、牛を注意深く観察し、けん引等の対応を適切に行う。

### ◇ 肉用牛 ～繁殖牛の退牧後の飼育管理～

舎飼い開始時は、飼料を急に変えないようにする。配合飼料の増飼いは、分娩2か月前から概ね離乳までの期間に行うが、過肥にならないよう給与量を調節する。また、蹄の伸び過ぎを防ぐため、削蹄を適切に行う。

### ◇ 豚 ～冬期間の飼育管理～

寒さによる発育の停滞や飼料効率の低下を防ぐため、すきま風の防止や適切な保温など防寒対策を徹底する。特に離乳直後の子豚は30℃程度の温度が必要なため、温度管理に注意する。また、呼吸器病等のリスクを軽減するため、密閉状態にせず、室温を確認しながら換気を行う。

### ◇ 鶏 ～高病原性鳥インフルエンザ等発生防止対策～

冬期には高病原性鳥インフルエンザ等の発生リスクが高まるので、鶏舎への野生動物の侵入防止に努めるとともに、防鳥ネットの点検や消毒など、ウイルスの侵入防止対策を徹底する。農場への出入りの記録は、少なくとも1年間保存する。

### ◇ 草地・飼料作物及び環境保全 ～良質たい肥の生産と適正施用～

良質たい肥生産のため、副資材の添加により通気性を確保するとともに、切り返しを適切に行い、発酵を促進する。生産したたい肥は、肥料や土壌改良資材として、積極的に草地や飼料畑で利用する。



#### 報道機関用提出資料

担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ 元山技師
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4817
報道監	農林水産部 高谷次長 内線 4967